

第 2 回天竜川流砂系総合土砂管理計画検討委員会【下流部会】 議事要旨

日時 平成 28 年 11 月 18 日（金）13:00～15:00
場所 TKP 浜松アクトタワー
カンファレンスセンター「ホール A」

【議事】

1. 第 1 回議事概要の確認と指摘事項の確認
2. 天竜川流砂系総合土砂管理計画（骨子案）
3. 置土実験について（報告）
4. その他

【議事要旨】

1. 第 1 回議事概要の確認と指摘事項の確認

- 事務局説明 ■ 事務局より第 1 回天竜川流砂系総合土砂管理計画検討委員会【下流部会】の議事概要と指摘事項について説明
- 主な意見等 ● 特になし。

2. 天竜川流砂系総合土砂管理計画（骨子案）

- 事務局説明 ■ 事務局より天竜川流砂系総合土砂管理計画（骨子案）について説明
- 主な意見等 ● 「目次案の「流域の役割を共有」、「連携の約束」という言葉が分かりにくいため、表現の工夫が必要である」旨の意見。
- 「前提条件には計算条件の前段に総合土砂管理に関する検討方針を示すとよい」旨の意見。
- 「河口テラス・海岸領域では、土砂供給量が減ったことにより構造物を設置し、その構造物が漂砂の連続性に悪影響を与えていると考えられることから、土砂供給量の減少についても課題として整理が必要である」旨の意見。
- 「河口テラスを維持するのではなく、回復させることを目標にする必要がある」旨の意見。

主な意見等

- 「各領域での目指すべき姿は相反するものがあるため、基本原則に各領域での調整を図る旨の文言を入れられないか。まずはそれぞれの領域において、検討条件等を議論したうえで流砂系全体として目標をどうすべきかを考えるとよい」旨の意見。
- 「土砂収支は流砂系全体としては1万 m³ 単位でもよいが、話が各領域での目指すべき収支となった場合、有効桁数をもう少し細かくする必要はある。」旨の意見。
- 「安倍川総合土砂管理計画の基本原則・目指すべき姿は天竜川の基本原則・目指すべき姿と表現が少し異なっている。流砂系の特性は異なるが安倍川も参考に整理するとよい」旨の意見。
- 「土砂管理目標については最終的には各領域で目標の通過土砂量を決めることになるので、通過土砂量を決めようとしたときに目標の表現の整合がとれているかを踏まえ検討するとよい」旨の意見。
- 「本川ダム領域（可動域）の土砂管理目標の「本支川の連続性の維持」の内容について分かるようにすべき」旨の意見。
- 「扇状地河道領域・河口領域の土砂管理目標について「河道掘削」などの流下能力向上に関する内容ではなく、総合土砂管理に関する内容の記載が必要である」旨の意見。
- 「管理指標は河床高だけではなく、粒度構成も入れた方がよい」旨の意見。
- 「管理指標は物理環境の変化が生物環境に影響すると考えられるため、因果関係を整理したうえで指標を設定するとよい」旨の意見。

3. 置土実験について（報告）

事務局説明

- 事務局より置土実験について説明

主な意見等

- 「置土は佐久間ダムの堆砂対策の影響評価として数年間のみ実施するのか、土砂管理対策として恒久的に実施していくのか、整理する必要がある」旨の意見。

4. その他

事務局説明

- 事務局より今後の委員会スケジュールについて説明

主な意見等

- 特になし。

以上

第1回天竜川流砂系総合土砂管理計画検討委員会【上流部会】 議事要旨

日時 平成28年12月9日 13:00～15:00
場所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 名駅桜通口
ホール4D

【議事】

1. 天竜川流砂系総合土砂管理計画検討委員会【上流部会】規約（案）の確認
2. 天竜川流砂系総合土砂管理計画の策定に向けた枠組み及び進め方
3. 同計画の検討プロセスと目次（案）
4. 同計画の既往検討を踏まえた整理状況

【議事要旨】

1. 天竜川流砂系総合土砂管理計画検討委員会【上流部会】規約（案）の確認

事務局説明 ■ 天竜川流砂系総合土砂管理計画検討委員会【上流部会】規約（案）の説明

主な意見等 ● 特になし。

2. 天竜川流砂系総合土砂管理計画の策定に向けた枠組み及び進め方
3. 同計画の検討プロセスと目次（案）

事務局説明 ■ 事務局よりの策定に向けた枠組み及び進め方と同計画の検討プロセスと目次（案）の説明

- 主な意見等 ● 「「流砂系」の定義をシンプルに説明できるように工夫する必要がある。」旨の意見。
- 「天竜川上流部の本川河道区間は、”谷底平野河道領域”の表現を使用した方が良い」旨の意見。
- 「総合土砂管理計画は部会は上下流になっているが、最終的にはまとめられる。総合土砂管理計画は小浜ダムとか美和ダムモニタリング結果を取り込んで作っていきたい。松川ダムではモニタリング委員会を設置し確認していきたい。」旨の意見。
- 「これからかなり大きな課題に対してやっていくプロジェクトがあり、全体としてどんな通過土砂量を水系の中に配分していったらいいのかという課題と、それぞれのところがやれるやり方を最適に考えていったときに全部合わせたらどんな水系の通過土砂量のものが見込めるのかという課題がある」旨の意見。

4. 同計画の既往検討を踏まえた整理状況

- 事務局説明 既往検討を踏まえた整理状況について説明
- 主な意見等
- 「流下能力図で計画高水流量以上をカットして示しているが、カットせずに示してほしい。」旨の意見。
 - 「それぞれの河道の課題（特に、局所洗掘、樹林化等）について、土砂動態との関連でデータの分析を行い、土砂管理とどう結びついているのかという視点で再整理する必要がある。」旨の意見。
 - 「樹林化等と土砂の関連は、不明な点も多くあるが、現在可能な見積もりの中で PDCA による管理を想定しながら、課題や土砂管理目標を記載していく必要がある。」旨の意見。
 - 「土砂管理対策を考える上では、過去の対策実施事例（河道掘削）等の分析から検討することが重要」旨の意見。
 - 「領域間の対策がバッティングする可能性があり、領域間の連携の仕方が重要。」旨の意見
 - 「将来的には、土砂を流すときの流量と粒径、流砂量、河床変化を捉えることが重要。」旨の意見。
 - 「領域間で矛盾が生じるとしても、各領域に必要となる土砂量をそれぞれ出してみるの重要。」旨の意見。
 - 「海岸まで含めた土砂管理計画を考える場合、通過土砂量が重要であり、その計測方法を検討する必要がある。」旨の意見。
 - 「流砂系としてのモニタリングは、各領域の事業のモニタリングを設定したものに対して、不足分を拡充するイメージで良いか。」旨の意見。
 - 「河床材料、河床の変化、植生との関係、等について、統一的に評価できるようなモニタリング方法が必要。」旨の意見。

以上